

# 隕石監視、人工衛星への衝突回避

# 空白「宇宙作戦隊」発足

日本の人工衛星を守るため、宇宙ごみ(デブリ)や隕石、不審な衛星を監視する航空自衛隊の「宇宙作戦隊」が18日、府中基地(東京都府中市)を拠点に発足した。宇宙監視に専従する自衛隊の部隊設置は初めて。防衛省は米軍や宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携し、情報共有システムの構築を図る。

## 米軍、JAXAと情報共有



航空自衛隊「宇宙作戦隊」隊長の阿式俊英2等空佐(右)に隊旗を授与する河野防衛相=18日午後、防衛省(代表撮影)

米軍は昨年12月、陸海空と並ぶ独立軍として1万6千人規模の宇宙軍をスタートさせた。中国やロシアは他国の人工衛星を攻撃する「キラード衛星」を開発していると考えられ、加速する宇宙影響を受ける可能性もある。

防衛省によると、宇宙作戦隊は約20人で発足。山口県山陽小野田市に建設するレーダーで高度約3万6千メートルの静止軌道を監視し、人工衛星をデブリなどから守る任務に当たる。2026年度までに、独自の宇宙監視衛星の打ち上げも目指す。

### 宇宙作戦隊を巡る経過

2018年12月18日	宇宙専門部隊の保持を掲げた「防衛計画の大綱」が閣議決定
19年8月30日	防衛省が20年度予算概算要求に宇宙作戦隊の新設を明記
9月17日	安倍晋三首相が、防衛省での自衛隊高級幹部会合で「航空宇宙自衛隊への進化も夢物語ではない」と発言
10月16日	河野太郎防衛相がBS番組で、米国の人工衛星が他国の衛星に攻撃された場合、存立危機事態に当たる可能性があるとの認識を表明
12月20日(現時点)	米軍に宇宙軍が発足
20年4月17日	宇宙作戦隊を新設する改正防衛省設置法が成立
5月18日	宇宙作戦隊が発足

**宇宙ごみ** 宇宙に打ち上げられた後、役割を終えたり故障したりした人工衛星や、ロケットの部品など、地球周辺の軌道を猛スピードで回る無用の物体。宇宙航空研究開発機構(JAXA)によると、10センチ以上のごみは約2万個ある。運用中の衛星と衝突する事故も起きており、各国はロケットアームや網で捕獲し、大気圏に落として燃え尽きさせるといった対策を検討している。中国は2007年、老朽化した自国の衛星をミサイルで破壊する実験をし、大量の宇宙ごみが発生。国際的な批判を浴びた。

18日に防衛省で開かれた隊旗授与式で、河野太郎防衛相は「新たな安全保障環境に一刻も早く適応するため、早急に宇宙状況監視などの体制を構築しなければならぬ」と訓示。宇宙作戦隊長の阿式俊英2等空佐は「まずは人材の育成が重要だ。米軍、JAXAと協力していきたい」と述べた。

JAXAは静止軌道に加え、高度千メートル以下の低高度周回軌道も担当。自衛隊がJAXA、米軍と互いに情報を共有するシステムは、23年度から運用が始まる予定になっている。

自衛隊は16年から、宇宙監視に関する米戦略軍主催の多国間机上演習に毎年参加。米カリフォルニア州の空軍基地にある宇宙作戦センターに連絡官の派遣を検討しており、部隊間の関係強化を進めている。

名前

①宇宙ごみを何と何といいますか。


②宇宙航空研究開発機構を英語で略すと何と何といいますか。


③この記事の感想を書きましょう。